

## ネリの不思議なピアノ

奄美市立奄美小学校 三年 宮崎 由衣

ここは、奄美大島。海の近くに、赤い屋根の木で作られている家がありました。そこには、ネリという女の子が住んでいました。ネリは、四年生でピアノを習っていました。ピアノの練習が大好きで、毎日練習をしていました。ネリには、ピアノの音が動物の鳴き声のように聞こえるのです。ネリは、ピアノをひくと動物と話しているようで、楽しく練習をしていました。

ある日、ネリが夕方にピアノの練習をしていると、いきなり「ド」のけんばんからふくろうのような鳴き声が聞こえました。

「ホーホー。」  
不思議だったので、もう一度「ド」のけんばんをひきました。すると、けんばんからけむりが出てきて、ポンとふくろうが出てきました。ネリは、びっくりしすぎて、しりもちをついてしまいました。ふくろうは、野球ボールくらいの大きさで、白黒のしまもようでした。ネリは、おそろおそろ立ち上がって、けんばんに近よりました。ネリは、もう一度「ド」の音をひいてみました。すると、ふくろうが「ド」と同じ高さの音で、

「ホーホー。」  
と鳴きました。

「わたしが思っていたとおりに。動物が鳴き声で音を出してる。おもしろい。」

今度は、「レ」のけんばんをひいてみました。すると、けむりが出てきて、ポンとやぎが出てきました。やぎも、ふくろうと同じように、野球ボールくらいで、白黒のしまもようでした。ネリは、

「やっぱり。」

とうでを組んでうなずきました。次は「ミ」のけんばんです。ひいてみると、ポンとねこが出てきました。

「次はどんな動物が出るんだろう。」

ネリは、続けて「ファ・ソ・ラ・シ・ド」とひいてみました。すると、ポン、ポン、ポン、ポン、ポンと次々にいろいろな動物が出てきました。「ファ」には、犬。「ソ」には、きつね。「ラ」には、ぞう。「シ」には、ねずみ。「ド」には、さいしよに出てきたふくろうが、今ひいた「ド」のところに、バタバタバタッととんできました。ふくろうがとんだので、ネリはまたびっくりしてしりもちをついてしまいました。どの動物も野球ボールくらいで、白黒のしまもようです。ネリは、「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ。」と続けてひいてみました。

「ホー・メー・ニャー・ワン・コン・パオーン・チュー。」

と音に合わせて動物が鳴きました。ネリは、あまりにもおもしろすぎて、大わらいしてしまいました。

ネリは、その日の夜、動物たちが、ピアノが苦手な子どもにピアノを教えているゆめをみました。朝おきて、けんぼんの動物たちに、

「ミアって子に、ピアノを教えてほしいんだけど、どうかな。」

と言いましたが、動物たちは、

「ホー・メー・ニャー・ワン・コン・パオーン・チュー。」と鳴くだけでした。でも、ネリには、動物たちが「いいよ。」と言っているんだと思いました。ネリは、バッグに動物たちを入れて、ミアの家につれていきました。ミアの家に着いたら、さっそく、動物たちがミアにピアノを教えました。ミアは、さいしょはびっくりしていましたが、ネリから話を聞いて、安心しました。「ド」をひくときには、ふくろうがけんぼんにのって、「ド」の場所を教えてくださいました。他の動物たちもふくろうと同じように、ミアに教えました。野球ボールくらいの動物たちが、けんぼんの上をまるでおどっているように動いたり、歌ったりしていました。ミアは動物たちの動きを見て、うれしそうにピアノをひいていました。ミアはいつのまにかピアノがすらすらとひけるようになっていました。ネリは、

「よかったね。」

とミアとハイタッチをしました。ミアは、

「教えてくれてありがとう。」

と動物たちとハイタッチをしました。

ネリと動物たちは、ネリの家の前に、かんぼんを立てました。

「ネリと動物たちのピアノ教室」

一週間後、ネリと動物たちのピアノ教室には、ピアノを習いたい子どもたちがたくさんきていました。ピアノ教室からは、子どもたちの楽しそうなわらい声と動物たちの鳴き声が聞こえてきます。

「ホー・メー・ニャー・ワン・コン・パオーン・チュー。」

